

令和4年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着を図るとともに、それらを活用する力を育むための柔軟なカリキュラムを策定する。</p> <p>②学び直しや協働的な学びを通して生徒が主体的に学ぶ意欲を高める。</p>	<p>①生活習慣を確立するように配慮しながら、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得する。身につけた基礎的・基本的な知識・技能を活用して、他者と協働して課題を解決しようとする意欲・態度及び能力を身につける。</p> <p>②新学習指導要領(平成30年告示)に基づく教育課程を計画的に実施する。実施状況を評価し、その改善を図る。</p>	<p>①モジュール授業等において学習状況を把握するとともに学習習慣を確立する。学習内容の習熟の程度に応じた、課題学習、補充的な学習などの学習活動を取り入れる。単元ごとに、指導と評価の計画の振り返りを行い必要に応じて改善を行う。情報通信ネットワークなどの情報手段や教材・教具を適切に活用して学習活動を充実させる。</p> <p>②単元ごとの教科会において指導と評価の計画に基づく学習評価を行い、生徒の学習状況を把握し、指導の改善に生かす。</p>	<p>①学習の習熟度に応じた課題学習を授業全体の10%以上取り入れることができたか。</p> <p>①授業改善の研修会を年間3回以上行うことができたか。また、生徒による授業評価において令和3年度と同等かまたは、それ以上の結果となったか。</p> <p>①Chromebookを授業全体の20%以上の場面で活用することができたか。</p> <p>②単元ごとに教科会を実施し、指導と評価の計画に基づき学習評価を行い、指導の改善にいかすことができたか。</p>	<p>①本年度入学生23名の授業の出席状況は良好である。習熟度を常に確認しながら、授業時間、時間外で個に応じた学習活動を行った結果、前向きに学習に取り組む姿が多く見られる。</p> <p>①情報通信ネットワークなどの情報手段や教材・教具を学習活動に活用する場面も、個々の活用頻度には差があるが、授業場面全体における割合では20%以上の活用は見られていた。</p> <p>②「指導と評価の計画」の作成にあたって、教科内で必要な話し合いをもった。また、年次研修の研究授業も活用し、全体で授業改善について協議する場を持つことができた。</p>	<p>①学習の習熟度に応じた課題学習を授業時間内、時間外で行い、学習意欲を高める。</p> <p>①年3回の授業改善の研修会を通して、教科として授業改善に取り組むとともに、授業内容を教科横断的な視点で考える場とする。</p> <p>①授業改善の研修会を通してChromebookの活用例を共有し、個々の活用頻度を上げていくことが課題である。</p> <p>②単元ごとに教科会を実施し、指導と評価の計画に基づき学習評価を行い、指導の改善にいかす。また、改善の結果が生徒の学びの実感に結び付くよう、校内研修を通じて研究していく。</p>	<p>入学する生徒が多様化する中で、個別の学習支援を進めている。外国につながる生徒の支援やICTの活用、様々なアプリの活用など、継続して生徒の学習を支えていく必要がある。</p>	<p>①令和4年度入学生23名のうち21名が進級した。基本的生活習慣が身に付き、学習への意欲を保っている。入学する生徒が多様化する中で、指導の個別化に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能の習得につなげた。また、身につけた知識・技能を活用し、他者と協働して課題を解決する場を適切に継続して設定することが課題である。</p> <p>②新学習指導要領(平成30年告示)に基づく教育課程を実施した。「指導と評価の計画」を作成し、常に指導方法等の改善に努めた。授業改善研修を通して組織的な取り組みとすることが課題である。</p>	<p>①個別の学習支援に、ICTや様々なアプリの活用を進める。そのため、職員向けの研修会を定期的に実施し、職員の情報リテラシーを高める。</p> <p>総合的な探究の時間を利用し、他者と協働して課題を解決する場を設定する。また、発表の場を設定し、課題設定、探究を計画的な取り組みとする。</p> <p>②引き続き「指導と評価の計画」を作成・実施する。授業改善の研修会において、指導方法や評価方法を改善するための意見交換の場を設ける。また、単元の終わりには、教科会を設け、教科として単元を振り返り、次の単元の計画を作成する。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①個々の生徒の多様なニーズに応じた適切な指導・支援体制を充実させる。</p> <p>②特別活動等を通して自己肯定感を高めるとともに、主体性や社会性、規範意識を育成し、豊かな人間性を涵養する。</p>	<p>①生徒個々への支援体制の更なる充実を目指し、昨年度構築したSC、SSWや外部機関との連携体制をさらに発展させ、活用する。</p> <p>②行事や授業、特別活動や部活動を通じて、何事にも主体的に取り組む積極性を育成するとともに、将来を見据えた自己マネジメント力を育成する。</p>	<p>①スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の外部の支援機関との連携により、生徒それぞれの状況にあった支援を徹底する。</p> <p>②行事や授業、特別活動などを通じて生徒の自己肯定感及び社会人としての資質を高める指導を行い、他者に配慮する姿勢を身に付けさせる。</p>	<p>①外部の支援機関とも連携し、生徒の個々の課題に対して有効な支援ができたか。</p> <p>②社会人としての資質を高め、個々の生徒が安心して学校生活を送れる教育環境を整えることができたか。</p> <p>生徒の自己肯定感を高めることができたか。</p>	<p>①SC、SSWを始めとした外部の支援機関と連携し、生徒の個々の課題を継続的に把握し、状況に応じた支援を行うことができた。</p> <p>②年度当初に予定していた行事をほぼ実施することができた。また、生徒の実態に合わせて参加形態を工夫し、取り組みやすい環境を整備し、授業、特別活動とともに、生徒が安心して学校生活を送る教育環境を整えることができた。</p>	<p>①外部の支援機関との連携において生じるタイムラグを少なくし、迅速な対応ができるような体制づくりを検討する。</p> <p>②授業はじめ、学校生活全般に前向きに取り組める環境づくりと生徒の支援を継続して行う。数値化は難しいが自己肯定感が高まったこと個々の生徒が実感できる機会をいかに設定していくかは今後課題である。</p>	<p>行事が再開し、今後地域の防災訓練への参加や町内会館の活用など、地域行事に学校としての参加をお願いすると共に、地域の資源も活用して欲しい。</p>	<p>①SC、SSWとの生徒情報の共有や職員へのフィードバックを行い、個々の生徒の課題を把握し、継続的な支援につなげることができた。継続的な支援を生徒の自立に結び付けるために、どのような関わり方をしていくのがよいかを、引き続き検証したい。</p> <p>②生徒が安心して学校生活を送れるよう教育環境を整えてきたが、生徒が自身の成長や学びを実感として捉えられるよう学習や特別活動の内容や携帯のさらなるが求められる。</p>	<p>①令和4年度末に教育相談体制を見直し、教育相談チームとして対応することを検討した。支援や相談は人との関係も大きいですが、学校として生徒をサポートするための組織的な取組方法を実践し、検証していく。</p> <p>②教育活動全体の中で生徒が主体的に関われる機会を多く設定し、個々の生徒の状況を踏まえたサポートを行うなど、生徒が達成感、自己肯定感をもってその結果を捉えられるよう取り組む。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①学年に応じた計画的なキャリア教育を実践し、生徒の進路意識を高めることで希望進路の実現に繋げる。 ②外部と連携したキャリア教育によって勤労観や職業観を育むことで社会的、職業的な自立を促す。	①生徒や保護者へキャリア形成について考える機会を提供するとともに、第一志望進路の実現のため、3年間を見通した体系的な計画に基づく進路指導を行う。 ②希望進路の実現のために、学習に積極的に取り組む姿勢を育成し、社会人として必要な資質を身につけさせる指導・支援を行う。	①学年に応じたキャリア教育の実践や進路情報の提供を計画的に行うとともに外部機関とも連携し、勤労観や職業観を育み、進路希望の実現を図る指導・助言を行う。 ②希望進路の実現に向けて必要な資質の育成を目指し、指導助言する。	①希望進路の実現を支援し、進路未決定者を少なくすることができたか。 また、進路に対する意識を高めることができたか。 ②生徒の自己実現に向けて学習指導を行うとともに、社会人としての資質を身につけさせ向上させることができたか。	①ガイダンスやインターンシップ参加への呼びかけ等、進路活動を様々な形で支援し、殆どの進路希望を実現させることが出来た。 また、進路に対する意識も向上させる事が出来た。 ②生徒の自己実現に向けて学習指導を行うとともに、社会人としての資質を身につけさせることができた。 (進路データ) 三修制 11人在籍 就職9人 進学2人 四修制 8人在籍 就職3人(他は活動中)	①引き続き生徒の進路に対する意識を高めるため、ガイダンス始め多様な事柄に触れ、考える機会を作って行きたい。 ②生徒の自己実現に向けて探求の授業等を活用し学習指導を行う事は出来た。社会人としての資質を身につけさせながら更に向上させることが課題である。	生徒の様子を一番把握している学校で、適切な進路指導をすることが大切だと考えている。	①生徒の進路に対する意識を高める為に多様な事柄に触れさせる機会を作ることが出来た。 ②生徒の自己実現に向けて総合的な探求の時間の授業を有効に活用することができた。今後は可視化できる社会人基礎力の育成が課題である。	①次年度は進路に対する意識を高める機会を更に増やしていきたい。 ②社会人基礎力を具象化し、それぞれの観点に近づける具体的な方法を考えたい。
4	地域等との協働	①コミュニティースクールを活用し、保護者・地域との連携をより一層深め、開かれた学校づくりを推進する。 ②地域との交流を深め、積極的に地域貢献活動を行う。	①コミュニティースクールの更なる活用と生徒の日々の活動を発信することで、地域の活性化につなげるよう務める。 ②地域の教育力の活用を具体化させるための方策を検討し、地域に発信、貢献する教育活動の充実を努める。	①様々な部会や評価部会の活動を通して保護者・地域との連携を図るとともに、生徒の探究活動や課題研究を通して得た知見を地域に発信していく。 ②地域清掃、横定文化発表会等の地域や保護者との交流が可能な機会を活用し、地域交流を深める。	①保護者・地域との連携した活動をコロナ禍の中工夫しながら行うことができたか。 ②地域清掃・横定文化発表会等において、生徒が主体的に地域と交流することができたか。	①保護者・地域との連携した活動は十分に行えなかったが地域清掃、文化発表会等の活動を通して、地域参加や日頃の取組を保護者に知ってもらう機会を持つことができた。 ②地域清掃を2回行った、地域交流は難しかったが、様々な制限が緩和される中で、活動の幅を広げることができた。 文化発表会での作品展示や発表は保護者との交流の場ともなった。	①PTA活動も含め、保護者・地域との連携の仕方を検討していく必要がある。学校運営協議会等で頂く意見を定時制の教育活動に生かす方策を検討していく。 ②様々な機会を利用して生徒が積極的に地域と交流する手段や方法を検討することが課題である。	PTAの在り方は課題、全日制と定時制とで協力できることがあるのか、考えてみてはどうか。	①学校運営協議会は定時制の取組を知っていただく機会になったが、地域連携や保護者と学校とのかかわりを深めるための具体的な方策は模索中である。 ②地域の方の参加はなかったが、地域清掃を通して生徒の活動の幅を広げることができた。また、文化祭、文化発表会など保護者の来校機会を設定できた。今後は、事業の作り手として学校との協力体制をいかに作るかが課題である。	①実態にあった地域連携やPTA等の組織作りを検討する。また、次年度は多文化共生コーディネーターやスクールメンターなどの制度を活用し、校内体制と外部との連携方法を、実践を通しながら検証していく。そのための会計や会則などの見直しも検討する。 ②地域清掃などの行事を保護者や地域の方へ公開する機会が増えると思われるので、呼びかけの方法や一緒に活動する方法を検討する。
5	学校管理 学校運営	①令和2年度末からの耐震工事に備えて環境整備を進め、教育環境への影響を最小限にとどめる。 ②HP等のツールを活用し、学校からの積極的な情報発信を行う。 ③教職員の仕事を精査し、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①仮設校舎への移転による教育環境への影響を最小限に抑える。 ②HP等のツールを利用し様々な情報発信を行い、定時制への理解を深める。 ③Teams等を活用することによって業務の効率化を進め、職員間での情報共有を図り、生徒に対して適切な指導ができる体制を強化する。 ③オンライン授業等の研究を進め、様々な場面でも安定した教育活動が行える体制を構築する。	①仮設校舎への移転による教育活動への影響を検証し、課題解決に向けた取組を徹底する。 ②本校についての理解を深めることができる内容をHP等のツールを活用し、積極的に発信する。 ③Team等の活用を進め、業務の効率化や会議時間の短縮等に取り組む、職員間の情報共有を徹底する。 ③オンライン授業等情報ツールを利用した取組の研究を進め、全職員が対応できる体制を整える。	①仮設校舎への移転による教育活動への影響の検証を行い、課題解決ができたか。 ②最新の情報をHPに掲載することができたか。本校についての理解を深めることができたか。 ③Teams等の活用する体制を構築できたか。教員間での情報共有を徹底することができたか。 ③オンライン授業等様々な場面に対応する体制を構築することができたか。	①耐震工事に係る移転に伴い、情報共有を図り、情報機器、配線等の切り替えも含め円滑に移転を完了した。 ②定期的な行事予定の更新、学校説明会等の情報発信に努めた。 ③授業研究に授業に活用できるアプリや動画の紹介等、学習活動においてICTを進める機会を設定した。また、Teamsにより情報共有や会議のペーパーレス化を進めることができた。	①今後も空調その他の工事との調整など情報共有に努め、学習環境を確保する。 ②本校への入学を考える生徒に向けて情報発信に力を入れる必要がある。 ③個別の学習支援とともに協働して学ぶことの面白さを伝えるための情報機器活用を引続き研究する。校務の効率化を更に進めていくための業務内容の精査が課題である。	耐震工事の状況について、十分に情報共有しながら、安全第一で進めてもらいたい。 今後もICTを、生徒とのコミュニケーション、教員間での情報共有、情報発信などに有効に活用してもらいたい。	①耐震工事に係る職員室等の移転は校内で、円滑に終了することができた。今回は年度末に移転するため、年度末の教務関連の業務や新年度の準備を、事故のないよう進めることが課題である。 ②ホームページ等のツールを活用した広報や情報発信よりも、個々の問合せに丁寧に対応することが本校への受検や関心に結びついていた。定時制へのニーズをどのように学校として捉えるかが課題である。 ③教科指導や校務など現状にあった方法で情報化を推進しているが、授業においては、さらなるICT活用が必要である。	①年度末の校舎移転を見越した作業計画を策定し、事務室、全日制との情報共有を行いながら移転作業に取り組む。 ②学校説明会の方法を見直すとともに、定時制に対する中学校側の捉え方などをリサーチする必要がある。また、ホームページや学校案内、説明会などの広報活動も充実を図る。 ③Teamsによる校務の効率化を引き続き進める。授業における情報機器の利活用についても、授業研究などを通して継続して進めていく。生徒の自学自習につながる活用方法も併せて検証する。